

第 3-10 表 テンポラリー労働者の割合

Table 3-10: Share of temporary employment

	2005年	2010	2015	2019	2020	2021	2022	2023	
日本	14.0	13.8	—	15.7	15.4	15.0	15.0	14.9	JPN
日本（全産業） 1)	14.1	13.9	7.6	13.0	12.8	12.4	12.3	12.2	a
日本（非農林業） 1)	14.0	13.8	7.4	13.0	12.8	12.4	12.4	12.2	b
アメリカ 2)	4.2	—	4.0	—	—	—	—	—	USA
カナダ	13.2	13.5	13.5	12.8	11.5	12.0	11.9	11.6	CAN
イギリス	5.8	6.1	6.2	5.2	5.4	5.6	5.4	5.3	UK
ドイツ	14.2	14.5	13.1	12.0	10.9	11.5	12.4	11.9	DEU
フランス	13.9	15.1	16.1	16.3	15.4	15.1	16.2	15.7	FRA
イタリア	12.2	12.7	14.0	16.9	15.0	16.4	16.8	16.0	ITA
オランダ	15.5	18.4	20.2	20.3	18.0	27.4	27.7	27.4	NLD
デンマーク	9.8	7.9	8.2	10.6	10.8	10.8	10.8	10.1	DNK
スウェーデン	15.8	16.4	17.2	16.6	15.4	15.2	15.7	14.7	SWE
フィンランド	16.6	15.6	15.4	15.8	14.9	16.6	17.2	16.7	FIN
ノルウェー	9.5	8.4	8.1	8.0	7.8	9.3	8.5	8.0	NOR
ロシア	12.2	9.1	9.0	8.0	7.5	—	—	—	RUS
韓国	27.3	22.9	22.2	24.4	26.1	28.3	27.3	26.7	KOR
オーストラリア 3)	6.7	5.2	5.4	—	—	—	—	—	AUS
ニュージーランド	—	—	—	7.7	7.6	8.0	7.1	6.9	NZL

a) All activities; b) Non-agricultural industries.

出典：〔日本 1〕 総務省統計局（2025.1）「労働力調査（基本集計）」

〔その他〕 OECD (<https://data-explorer.oecd.org/>) 2025年8月現在

注： OECDによる公表値。OECDでは、雇用期間があらかじめ決められている賃金労働者をテンポラリー労働者と定義づけている。これには季節労働者、派遣労働者、特定の研修契約を結んでいる者（見習い、研修生等）が含まれる。さらに各国独自の定義については、以下の資料（Table.3）を参照のこと。

https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/data/datasets/employability-data/LFSNOTES_SOURCES.pdf

1) 本表においては2017年迄「臨時雇」と「日雇」の計、2018年以降は雇用契約期間が1年以下の者をテンポラリー労働者とし、それぞれ雇用者に対する割合をJILPTにおいて算出。また、2013年に調査票の変更があり、それ以前のデータとは接続しない。

2) 2015年の欄は2017年の数値。

3) 2005年の欄は2006年の数値。